

## 2022 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨

※1000 字程度

【タイトル】 アドバンス・ケア・プランニングに関わる専門看護師の実践内容とチームアプローチとの関連および促進要因と阻害要因の抽出

【研究者名】 児玉 久仁子、藤原 由佳、鈴木 智津子、松本 佐知子、佐藤 直子、吉田 智美

## 【要旨】

## 1. 研究目的

本研究では、ACP に関わる CNS の実践内容とチームアプローチとの関連を明らかにし、その促進要因と阻害要因を抽出することを目的とした。

## 2. 研究デザイン

混合研究の収斂デザインを用いて、日本専門看護師協議会の専門看護師 1702 名を対象としたアンケート調査を実施した。従属変数をチームアプローチ評価尺度改訂版（以下 TAAS-R）をとし、独立変数を基礎情報 6 項目（CNS の年代、性別、看護師経験年数、CNS 経験年数、CNS 分野、勤務場所）及び ACP に関する実践活動 6 項目〔ACP に関する学習経験の有無、実践件数（過去 1 年間）、実践内容（患者支援の有無、家族支援の有無、合意形成支援の有無、関係者支援の有無）〕として統計的に関連を調べた。ACP に関する事例として満足に繋がった事例と繋がらなかった事例について自由記述で回答を得て質的に分析した。

## 3. 結果

対象者は、回答者 605 名（回答率 35.5%）のうち、選定基準を満たし、TAAS-R 尺度欠損のない 451 名であった。TAAS-R 尺度全体の合計点は 66（最小 45，最大 88）であった。単変量解析の結果では ACP に関する実践活動 6 項目のうち実践件数、実践内容（患者の支援、家族の支援、関係者支援）が TAAS-R 得点上昇と関連し、多変量解析の結果では実践件数との関連が見られた。

事例分析の結果では、ACP の促進要因としては、話し合いを重ねる、患者の意向を踏まえる、患者を取り巻く関係者間の話し合い、事前意思の共有、意思決定能力の見極め、関係者の感情調整が抽出された。阻害要因としては、介入時期の遅れ、医療者の説明不足、家族や環境の課題、看護体制、患者と医療者のズレが抽出された。

## 4. 考察

TAAS-R 尺度全体の総合得点は、対象者の CNS はやや得点が高い傾向があった。また、CNS の ACP に関する実践活動のうち 4 項目において TAAS-R 得点上昇との関連が確認されたことは、CNS の ACP に関する実践活動がチームアプローチにおいて効果的に機能している可能性が示唆された。また、事例報告では、CNS が困難事例に関わっていることや ACP 支援の具体的なプロセスが抽出されており、ACP プロセスにおける促進要因として寄与できると考える。

## 5. 結論

CNS は、TAAS-R 尺度全体が高得点の傾向にあり、ACP に関する実践活動との関連が示された。さらに CNS が ACP に関する困難事例に多く関与しており、ACP プロセスの促進要因と阻害要因が明らかになった。